

【足立区在宅療養推進協議会】概要

会 議 名	令和7年度 第3回 足立区在宅療養推進協議会
事 務 局	福祉部 医療介護連携課
開催年月日	令和7年11月10日(木)
開催時間	午後7時～午後9時
開催場所	すこやかプラザ あだち 大研修室
出席者	別紙(委員名簿)のとおり
欠席者	別紙(委員名簿)のとおり
会議次第	別紙のとおり
資 料	別紙のとおり
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・足立区在宅療養推進協議会議資料

令和7年度第3回足立区在宅療養推進協議会委員名簿

【出席者】

氏名	選出団体名	所属における役職等
有野 亨	足立区医師会	会長
山下 俊樹	足立区医師会	副会長
佐藤 浩史	公営社団法人東京都足立区歯科医師会	常務理事
花田 豊實	公営社団法人東京都足立区歯科医師会	理事
鶴沢 隆	足立区介護サービス事業者連絡協議会	会長
白井 良一	足立区介護サービス事業者連絡協議会	居宅介護支援部会部会長
内山 ちあき	足立区介護サービス事業者連絡協議会	居宅介護支援部会部副部会長
塩谷 総吾	足立区介護サービス事業者連絡協議会	訪問介護部会部会長
羽田 雅代	足立区介護サービス事業者連絡協議会	訪問看護部会部会長
和田 庸右	東京都柔道整復師会足立支部	副支部長
大館 哲詩	あだちPOSネットワーク	世話人
小浦 梓	東京都栄養士会足立支部	副支部長
永田 健一	足立区多機能サービス連絡会	代表
結城 宣博	足立区社会福祉協議会	部長
伊東 貴志	足立区	福祉部長
半貫 陽子	足立区	高齢者施策推進室長
小峯 直樹	足立区	介護保険課長

【欠席者】

氏名	選出団体名	所属における役職等
橋爪 敏彦	足立区医師会	理事
馬場 優子	足立区	衛生部長
網野 孔介	足立区	衛生管理課長

(審議経過)

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター
定刻になりましたので、令和7年度第3回足立区在宅療養推進協議会を開催させていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日司会を務めます、医療介護連携課の渡邊と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。はじめに、事務連絡をさせていただきます。この会議は、足立区在宅療養推進協議会設置要綱第9条に基づき公開することとなっております。記録の関係上、録音および撮影をさせていただきます。会議の結果につきましては、ホームページに公開いたしますので、予めご了承ください。また、机上に、次第及び説明資料1から12を配付しております。会議の途中で、資料の不備・不足等お気づきになりましたら、お手数ですが事務局までお声かけください。なお、ご発言の際は挙手にてお願ひいたします。

それでは、次第1 開会挨拶 足立区在宅療養推進協議会 有野会長よりご挨拶をお願ひいたします。

1 開会挨拶

○有野会長 皆さま、こんばんは。寒くなりましたので、体調管理が難しい時期となりました。東京ではインフルエンザが流行していますので、皆さまご自愛ください。今回で第3回となりますが、案件の報告にもある通り、皆さまのご協力により、進捗状況は良い感じで進展しています。本日も活発な協議をお願ひいたします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター
ありがとうございます。以降の進行は有野会長と交代します。よろしくお願ひいたします。

○有野会長 着座にて失礼いたします。それでは、議題の方を進行したいと思います。

次第2の案件(1)在宅療養普及啓発紙の発行について、事務局からご説明をお願ひいたします。

○栗野医療介護連携推進係員 資料1をご覧ください。在宅療養普及啓発紙の発行についてご説明します。前回の推進協議会でイメージ図を共有させていただきましたが、先日(11月5日)の第3回プロジェクトチーム会議で出た意見も後ほどお伝えします。11月27日から11月9日の2週間程度で、表紙と中面に乗せる写真撮影を行いました。ホームページ用の取材も合わせて行いました。資料には井上先生や羽生さんなどのお写真を載せています。表紙は業者から提供されたイメージ図通り、撮影した写真を切り抜いて皆さまの写真を載せる予定です。皆さまが仕事をしている様子を2面に載せる予定です。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございます。プロジェクトチーム会議で文章についてご意見をいただき、まだ調整するところがありますが、イメージが出来上がりました。イラストに関しても表情が暗いとのこと、現在別のイラストを書き直していただいています。啓発紙の名称ですが、プロジェクトチーム会議で意見を出し、アンケートを取った結果、「在宅療養あだち」に決定しました。この名前が表紙の右上に載る形になります。

○有野会長 だいぶ立派なものことができましたね、この配布場所は、駅の情報スタンド、ハウカツ、区内の医療機関、区内の公共施設、イベント等という形で理解してよろしいでしょうか。

○栗野医療介護連携推進係員 はい、駅スタンドなども活用して、色んな人の手に届くように配布しようと思っています。また、皆さまにも配布数の調査をさせていただき、配布のご協力をお願ひしたいと思っています。

○有野会長 他に質問、ご意見はありますか。よろしいでしょうか。

(2) 地域ケア会議報告会の開催について

○有野会長 続いて、案件の2、地域ケア会議報告会の開催について、こちら事務局からご

説明をお願いいたします。

○安達医療介護連携推進係員 医療介護連携課の安達と申します。地域ケア会議は、各地域包括支援センターで開催しているものになります。地域包括支援センターの職員の方から、開催結果の報告会を第4回目のこの会でさせていただきますとと考えております。

本日は、その報告会の前に地域ケア会議についての説明をさせていただきます。まず地域ケア会議ですが、この中で実際に参加された方いらっしゃいますでしょうか。

地域ケア会議は介護保険法に基づき開催されており、主体は地域包括支援センターです。区内25箇所にあり、それぞれ年1回以上開催しており、区の委託事業となっております。令和6年度は39回開催されていまして、今年度は10月末時点で33回開催済みです。

地域ケア会議では個別の事例検討を行います。具体的な事例を用いて、その方が地域で自立した生活を送るための体制、支援を検討します。参加者に関しては、事例に応じて選定します。地域包括支援センター職員、介護事業所、医療機関、行政の職員、担当所管の職員、また地域の方（民生委員、町会長など）も参加します。ケースによってはご本人やご家族が参加されることもあります。圏域ごとの地域包括支援センターで地域ケア会議が開催され、そこで課題や解決手法が共有され、地域課題の発見、把握につながります。これを受けて地域作りや資源開発の検討を行います。この検討には介護医療分野を含む様々な分野の連携が不可欠であり、最終的に行政計画への位置づけとして、地域包括ケアシステムの実現へつなげます。

○鈴木在宅療養支援コーディネーター 課題分類15種類のうち、認知症、ひきこもり、精神疾患、身寄りなし、サービス拒否などが共通して挙げられています。特に令和6年は身寄りなし、サービス拒否、精神疾患が多いです。今

年度は推奨テーマを挙げ「身寄りなし・孤立・精神疾患」に関わる課題に対して、地域ケア会議の開催をいたしました。具体的な事例として「精神疾患を抱える長男と暮らす要介護高齢者の支援」のような複合的ニーズのケースがよく上がってきます。高齢者のみの支援だけでなく、精神疾患やひきこもりを抱えるケースが増加傾向にあります。この事例は、地域による見守りや関係機関の情報共有・連携が必要なため、地域ケア会議の事例として上がりました。地域ケア会議は、行政や事業者だけでなく、地域のネットワークが大切で自治会長や民生委員など地域の方も参加する点が重要です。この事例の課題としては、1. 精神疾患やひきこもりの家族が支援先が分からず、発見時には重度化している。2. ケアマネ自身がどのように相談し解決に導けばよいか悩んでいる。3. 精神疾患の長男など、高齢者以外の支援者が不在である。4. 家族の支援の相談先の周知が不足しているなどが挙げられます。対応策としては、行政の相談窓口の周知を強化、区民の目として「絆の安心ネットワーク」などを活用推進、民生委員による自主研修の必要性を挙げておりました。成果としては、区民、行政、関係機関が課題を再認識し、明日から行動に移していくことが挙げられます。また令和7年度の開催結果報告に関しては次回の第4回協議会で時間をいただきますが、地域包括支援センターの代表者2名（各ブロックから）の報告のあと、皆さまと地域課題にどう向き合うかについての意見交換の場とさせていただきますと考えております。

○有野会長 ただいまの説明、報告について、ご質問、ご意見はありますか。

○鶴沢副会長 地域ケア会議は大事な取り組みであり、最終的に政策提言につなげられるべきという目的は変わっていません。小会議、中会議、大会議という仕組みがあります。現場に

残る課題（身寄りなし、孤立、精神疾患）は不変的なものであり、政策形成は難しくても、その視点を持って会議を運営し、小会議の回数を重ねることも大切ですが、中会議、最終的に大会議に取り組むべきだと考えます。

○塩谷委員　ハウカツから相談はあるが、地域ケア会議の題材として資料提出を求められた際の基本情報などの書類作成が煩雑であり、通常業務を行いながら時間を取られることが課題です。地域にとって大切だとは思ふものの、書類作成の負担軽減や、ハウカツとの分担ができるような形があれば、より協力しやすいと考えます。

○河井医療介護連携推進係長　貴重なご意見ありがとうございます。地域ケア会議の小中大の仕組みや開催の中での負担軽減については、課題検討会の中で包括の皆さまと検討しております。内部的にも検討を進めていきたいと思えます。

○有野会長　他にありますか。では、この案件については終了といたします。報告事項を事務局よりお願いいたします。

3 報告

（1）令和7年度第2回 医療介護スキルアップ研修の開催について 【資料3】

○鈴木在宅療養支援コーディネーター　第2回医療介護スキルアップ研修について報告します。日時と場所ですが、11月27日木曜日、すこやかプラザ あだちで開催します。

テーマは「本人中心で共につくるケアに向けて～社会的処方と可能性指向を手がかりに～」となっています。「可能性指向」という言葉（本人の困り事ではなく、好きなことや得意なことに目を向けるケアの考え方）を中心に講義と簡単なペアワークを行います。

講師は堀田聰子先生と西上ありさ先生をお呼びしています。現在101名の参加募集が来ています。締め切りは今月の21日までです。委

員の皆さまもご協力をお願いいたします。

（2）在宅療養区民啓発講座の開催結果について 【資料4】

○高在宅療養支援コーディネーター　在宅療養区民啓発講座について報告いたします。

第1回目の区民啓発講座は11月1日（土曜日）に足立区勤労福祉会館で行われました。当日参加された講師の先生方、ありがとうございます。40名の参加があり、終了後の個別相談ブースには3件の相談がありました。参加者アンケートですが、92%の回収率でして、感想は、

「とても分かりやすく参考になった」「在宅療養のイメージが湧いた」「専門の先生方のお話が聞けて良かった」という感想が多くありました。また「高齢者に向けた食事内容など管理栄養士からの話も聞きたい」という内容もありました。参加者の年代ですが、50代（12名）が最も多く、次いで80代（10名）、70代（8名）でした。90代の方も1名参加されていました。以上が第1回目の報告となります。次に第2回目の開催予定ですが、令和8年2月14日（土曜日）、「すこやかプラザ あだち」で行います。講師の先生方にお願ひし、チラシ作成や資料準備を進めています。

（3）入退院支援相談員交流会の開催について 【資料5】

○西村在宅療養支援コーディネーター　入退院支援相談員交流会について報告します。

第2回目の結果ですが、9月11日に行われ、病院、43名の相談員が参加しました。内容は「入退院支援の場面における連携の課題」をテーマにグループワークを行いました。

第3回目の予定ですが、12月4日（木曜日）場所はすこやかプラザで「急変時の対応」をテーマに事例を用いたグループワークを行う予定です。第4回目は令和8年2月12日木曜日、地域のケアマネージャーや訪問看護師にお声がけし、病院の相談員とワールドカフェ形式で

意見交換を行う予定です。

(4) MCSについて【資料6】

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター
MCSについてご報告いたします。現在の登録状況（10月末）ですが、3,159名が登録、ログイン率は60%以上をキープしています。第2回中級編の研修会ですが、ゼロイチ在宅クリニックの任先生、ベストリハ訪問看護ステーションの鳥飼さん、まんまる薬局の石丸さんに登壇いただき、実際の活用事例を紹介いただき非常に内容の濃い研修となりました。今後の予定ですが、第3回は初級編の研修会を予定しており、12月10日（水曜日）14時から15時半、場所は特別養護老人ホーム「はるかぜ」の場所をお借りする予定です。現在、北部ブロックの多職種連携研修会のグループ登録数が少ないため、北部ブロックでの開催場所を探していました。施設との連携強化も検討しており、「はるかぜ」が地域連携に積極的なため、今回場所をお借りすることになりました。研修対象者は未登録者や、登録しているが使い方が分からない初級の方を対象にご案内を開始します。前回、鶴沢副会長からご要望のあったMCS紹介資料についてですが、エンブレスが作成している資料をアレンジしたもので、レイアウトの参考として提示しています。内容については足立区での実際の活用例を掲載する予定ですが、ご意見があればいただきたいと思っております。

(5)大研修室の利用実績について【資料7】

○高橋医療介護連携推進係員 大研修室の8月から10月までの利用実績について報告します。全体の利用率は37.3%（前回より3%上昇）、平日の利用率は38.4%（前回より9.5%減少）。土日祝日は21.9%（前回より18.4%上昇）となっており、増加した理由は健康まつりやピンクリボンなどのイベント開催により、研修室を丸一日使用する機会が増えたためです。また

夜間のみの利用は25%（前回より2.1%上昇）となっています。

次に11月から12月までの利用実績ですが、夜間祝日除く午前・午後の利用に関しては、52%利用となっており、医師会などの研修会利用が増加しました。医療介護連携課が最も多く、スキルアップ研修や認知症実践者研修などを開催したためです。主な利用者は、区役所内部（主に福祉部）の利用が多いですが、足立区医師会、介護サービス事業者連絡協議会などの方々にもご利用いただいております。予約状況に関してですが、夜間、土日祝日はまだ予約できますので、ご活用をお願いします。

○河井医療介護連携推進係長 昨年度実施していた次年度分の利用事前調査は行いません。6か月前から入力が可能です。6か月より先の予約は事務局で抑えることができますので、ご連絡ください。

(6)医療介護関連事業の大研修室利用について【資料8】

○徳井医療介護連携課長 大研修室の利用の方向性について情報共有と報告をいたします。現状ですが利用が増えており、先日も夜間、医師会、介護サービス事業者連絡協議会、その他の団体が3部屋をすべて利用されており、まさに「すこやかプラザ」だと感じました。現在、在宅療養推進協議会にご参加いただいている8つの団体にIDを配布しています。今後は公益性の高い事業や区民向けの講座など、これ以外のところにもどんどん使っていただきたいと思っております。今後、区が事業の適否などを判断し、予約を取っていきますが医療関係は衛生部、医療と介護の連携に関するもの、介護に関するものは福祉部（医療介護連携課）で受け付けいたします。平日より土日の方が比較的空いています。土日に限っては、庁内の医療介護以外の事業も予約できるようになっています。

(7) 「医療と介護の連携・研修センター」ホームページの更新について 【資料9】

○原医療介護連携推進係員 医療と介護の連携研修センターホームページの更新について報告します。ホームページ内でイベントカレンダーを作成し、各団体のイベント告知をカレンダー表示できるように運営しています。大研修室を利用したイベントのほか、別場所でのイベントも表示可能です。掲載については事務局までお問い合わせください。以前、「すこやかプラザあだち」と検索してもホームページが出てこないという意見がありましたが、検索を改善いたしまして、今では「すこやかプラザあだち」と検索すると上から3つ目には研修センターが表示されるようになっています。

(8) 在宅療養支援窓口の相談実績について 【資料10】

○馬場在宅療養支援コーディネーター 在宅療養支援窓口の相談実績について報告します。相談件数ですが、全体件数は減っていますが、相談者別で見ると、地域包括支援センターからの相談、施設からの相談が少しずつ増えていきます。認知症症状のため施設でみられなかったり、薬の調整が必要であったりする際に相談をいただき、病院につながることが増えています。グループホームさんからの相談もあります。最近ではMCSについての相談も受けることが増えているため、そういった問い合わせも対応した件数としてこちらに載せていく考えです。また、コロナウイルスや疥癬などの感染症による入院相談が増えています。これはご本人が感染した場合だけでなく、ご家族が感染し介護が大変になるため、一時的な入院先を相談するケースが多くなっています。

(9) 在宅療養ワーキンググループの開催結果について 【資料11】

○徳井医療介護連携課長 都が主催する在宅療養ワーキンググループについて報告します。

9月の足立区での事前会議と10月の区東北部としての在宅療養ワーキングの結果です。

テーマは「2040年に向けて今までの取り組みの振り返りと今後必要なこと」でしたが、テーマと話も広すぎたため、なかなかゴールに行きつかなかった、というのが全体的な感想です。その中でもよい話も出てきて、連携職種の拡大が図られ、多職種で顔の見える関係が構築され連携が深まってきたと評価されています。また具体的な意見として、薬剤師がケースカンファレンスに呼ばれないので、もっと呼んでほしいという話も出ました。

今後の方向性としては1.在宅療養に関わる事業者が増える中で、質の高くないところも目立ってきており、サービス向上に関する対応が必要。2.在宅療養に関する啓発として、意思決定支援(ACP)や区民啓発講座などを開催し区民の方々の理解を広げていく必要があるということが挙がりました。

(10) 区民健康まつりの開催結果について 【資料12】

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター 第52回足立区民健康まつりの開催結果について報告します。足立区医師会、歯科医師会、薬剤師会、柔道整復師会、衛生部の方々による共催企画でしたが、今回は医療介護連携課も加わり、介護系の皆さまにもご参画いただいた企画となりました。クイズラリーの流れですが、1階の受付でクイズラリー用紙などを受け取り、エレベーターで上がってもらい3階のメイン会場にまず第1問目を設置しました。福祉用具体験コーナーには介護ベッド、介護ロボットなどを展示しましたが、会場に入りきれないほどの盛況な状況の時もあり、会話ロボット(小林幸子さんと会話できるもの)を利用しご婦人が長時間楽しんでいらっしゃいました。

危機管理課ブース「ながら見守り」の登録ブースでは40名を超える登録があり、非常に盛況

でした。1階社協の高齢者擬似体験コーナーには60名以上が訪れ、車椅子体験コーナーも、お子さんも含め、並んでお待ちいただく状況がありました。その他、ビュー坊の記念撮影や1階では景品の受け渡しを行いました。

○有野会長 ありがとうございます。各報告について、ご意見、ご質問はありますか。よろしいでしょうか。

4 各団体からの情報共有について

○有野会長 各団体のイベントや専門職の皆さまに共有する事項があれば、挙手をお願いいたします。

○浅見委員 研修会のご紹介をいたします。

12月16日(火)19時～20時35分、場所はすこやかプラザあだち、研修はハイブリッド形式で開催します。ミヤリサン製薬との共催でして、腸内細菌のお話をさせていただきます。女子医大足立医療センター薬剤部長の伊藤先生から「腸内細菌から痛みの治療を考える」(鎮痛と腸と脳の関連とは)、女子医大検査科消化器内視鏡科教授の佐藤先生からは「消化管腫瘍に対する内視鏡治療」、特別講演として慈恵医大の教授より「慢性便秘症の病態に応じた治療」の講義がありまして、かなり贅沢な講演となっております。今回薬剤師会がすこやかプラザあだちの会場を使うのは初めてですので、ぜひウェブでなく、実際に会場に来ていただきたいと考えています。MCSを活用して案内をさせていただきます。

○鶴沢副会長 介護の日(11月11日)について情報共有します。現状介護の日は認知度が低いです。足立区では毎年この日に合わせて永年勤続表彰の式典を開催していたりとか、当会でも共催という形で、役所のホール(アトリウム)を使って用具展示や健康相談を行っています。介護のイメージが社会的にはまだネガティブな部分がありまして、思いとしては、介護の面白さを若い世代にPRする機会にしたいと

考えています。そうすると平日の開催で良いのかななどの課題もあります。明日の表彰式では、受賞者は何百人いるはずですが、会場に参加できるのは30人程度です。平日昼間では現場から出ることが難しい現状があります。地域の在宅療養、医療・介護を支える者としてこういった訴求するイベントなどを大きく育て上げたいという思いがあります。今後、この場所もできたことすし、時代に合った違った取り組み方を皆さんと一緒に相談していきたいと考えております。

○有野会長 11月11日が介護の日になった理由は何ですか

○鶴沢副会長 11月11日は1年で一番記念日が多い日といわれています。「いい日いい日」という語呂合わせで決まったと聞いています。

○有野会長 ありがとうございます。その他報告事項などのご質問などありますか。

○鶴沢副会長 MCSに関してですが、MCSはユーザーが増え、導入ケースでは明らかにコミュニケーションが促進されています。肯定的な意見も増えてきていますが、一方で導入にはまだ課題があります。ケアマネ、医師や訪問看護師は先行して使っていますが、介護サービス(デイサービス、福祉用具、訪問介護など)ではまだ普及が進んでいません。訪問介護事業所のMCSの普及状況など、今どんな感じか教えてくださいませんか。

○塩谷委員 MCSは医師と訪問看護師と薬剤師がメインなのが現状かと思います。サービス事業者はどうしても受け身になりがちです。ケアマネジャーから依頼された内容を履行することに注力しがちで、どちらかというと自発的な提案が少ないかなと思います。そのため、多職種連携ツールの中に主体的に入っていくことが少ないのではないかと思います。MCS以外でも、ケアプランデータ連携システムといっ

た新しいものへの踏み出しが弱いという傾向はあります。訪問介護部会の努力というか、もっと主体的にやっっていこうというところを、私を中心となって盛り上げていきたいと考えています。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター
MCS 普及にあたっては、一斉登録ではなく、本当に使いたい方から始め、じわじわ広げようという経緯があります。鶴沢委員や羽田委員のように、使って良かったという感覚を持った方がお勧めしてくださるところから始まっており、これは間違いないと思っています。高齢者の方など拒否を示す方も多いため、少しずつ信頼関係のあるところから広げていければと考えます。先ほど説明いたしました、第3回の研修会も予定していますが、今年度もう一回予定しておりますので、塩谷委員と相談しながら企画をさせていただければと思います。

5 令和7年度第4回足立区在宅療養推進協議会の開催について

○黒河内介護人材確保・育成担当係長 次回、令和7年度第4回足立区在宅療養推進協議会の開催についてご案内します。場所はすこやかプラザあだちです。開催候補日時ですが、令和8年2月9日（月）もしくは18日（水）19時からとなっております。どちらかの日時でご都合が合わない方、挙手をお願いいたします。では、皆様のご都合の良い令和8年2月9日（月曜日）19時で決定いたします。

○徳井医療介護連携課長 内容に関しては、在宅療養の推進について、MCSの活用促進について、各職種・団体の課題共有について、協議事項に関しては今回はテーマを決めきれず載せられませんでした。第4回では地域ケア会議の報告会があり、皆さまにご意見をいただく案件があります。次年度以降は在宅療養推進のために、改めてテーマを設けさせていただきたいと思っています。

○有野会長 本日の案件は以上となります。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター
有野会長、委員の皆さま、長時間にわたり様々なご意見、ご質問いただきまして、ありがとうございました。

以上で本日の会議は終了となります。お車でお越しの方は、お帰りの際に1階の受付に申し出てください。駐車券をお渡ししております。これにて令和7年度第3回足立区在宅療養推進協議会を終了させていただきます。忘れ物のないようにお帰りください。本日はありがとうございました。